

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	23		ド透I未訓ガ	救随が感へ災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	44,010	非該当	7:1	

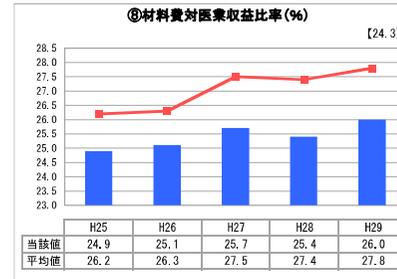
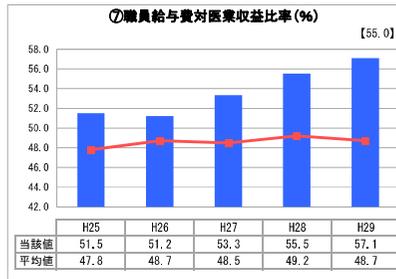
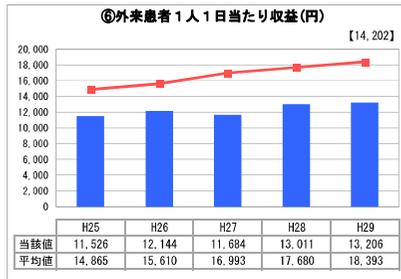
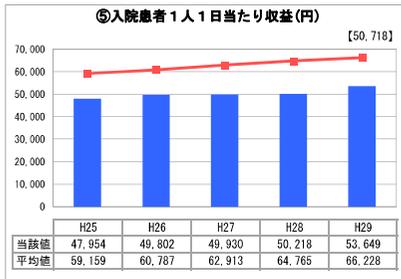
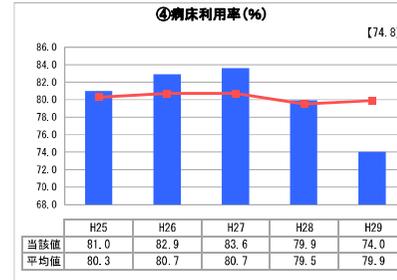
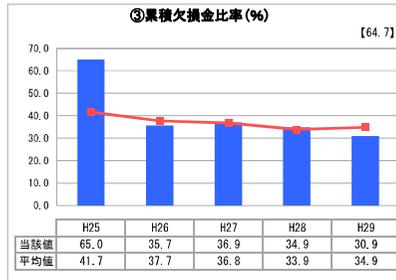
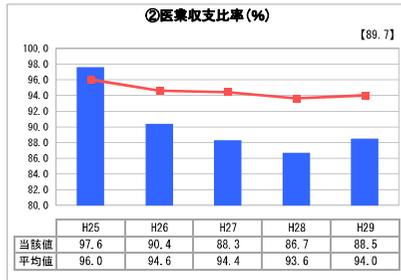
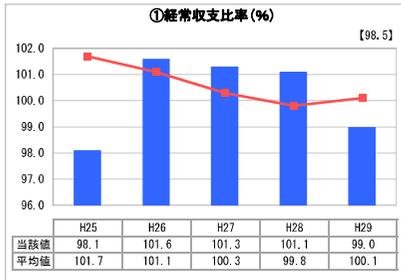
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

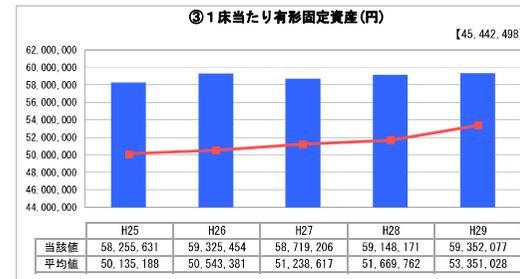
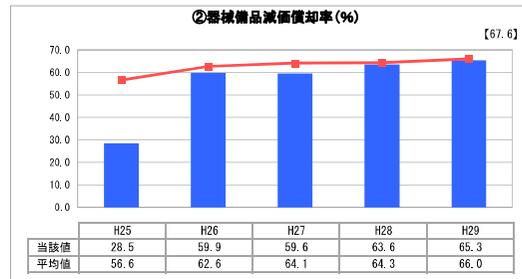
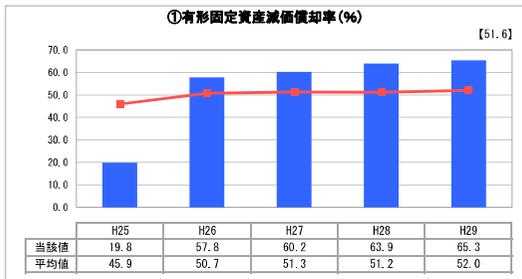
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
496	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
20	4	520
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
417	-	417

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

## I 地域において担っている役割

公立置賜総合病院は、置賜二次保健医療圏の中核病院として高度・先進医療を提供するとともに、小児医療、周産期医療、精神医療などの専門医療を担うほか、県の臨床研修指定病院として研修医を育成するなど教育病院の機能も担っている。

また、併設している置賜地域唯一の救命救急センターの後方支援を行いながら、二次・三次の救急医療や災害拠点病院の役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

会計制度の変更があった平成26年度を境に数値は大きく変化しているが、「経常収支比率」、「累積欠損金比率」は、ほぼ平均あたりで推移している。「医業収支比率」は、前年度よりも1.8ポイント改善したものの、まだ平均よりも5.5ポイント下回っており、本業である医療活動部分について更なる経営改善が必要である。

「1人1日あたり収益(入院・外来)」については、現状、平均値にも届いていない状況であるため、新たな診療報酬加算の取得などによる収益アップに取り組む必要がある。

「職員給与費対医業収益比率」については、類似病院の職員平均年齢や1人当たり給与費を比べると大きな乖離が見られないことから、医業収益を上げることができれば、平均値に近づくことが見込まれる。

### 2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」については、前年度より1.4ポイント増加、平均値よりも13.3ポイント上回っており、平均より老朽化が進んでいる。「器械備品減価償却率」については、前年度より1.7ポイント増加しているが、ほぼ平均値となっており、器械備品の更新計画をつくり、計画的に更新している結果と思われる。

有形固定資産のうち、簡単に更新することができる「建物(施設・設備)」の老朽化が進んでいると見ることができ、今後は、設備更新や大規模改修などの更新費用が増加することが見込まれることから、施設・設備の中長期改修計画を策定する必要がある。

### 全体総括

平成29年度決算については、「経常収支比率」が4年ぶりに100%を下回る結果(99.0%)となり、黒字を維持することができなかった。

一方、本業である「医業収支比率」については、昨年度までは3年連続で「前年より悪化」していた状況を、今年度は改善することができ、医業収支改善の取組みが一步前進したという結果となった。

今後も延患者数の減少は進むと予想されるため、「1人1日当たり収益(入院・外来)」を上げることと同時に、医業費用の削減を推進することで医業収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜長井病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	透訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	16,247	第2種該当	15:1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
60	-	110
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
50	-	50

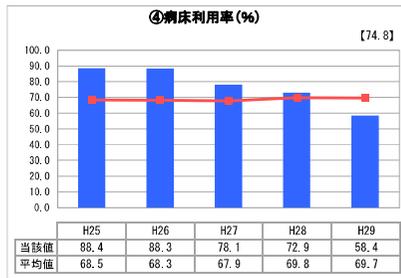
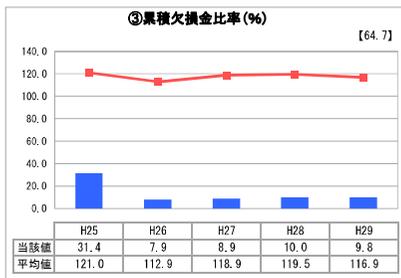
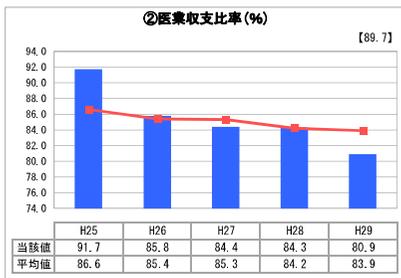
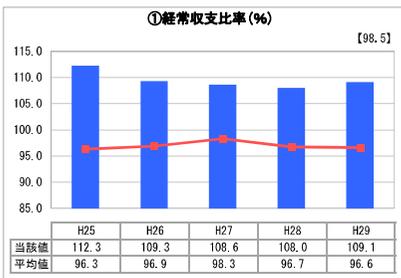
**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 平成29年度全国平均

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

## 1. 経営の健全性・効率性

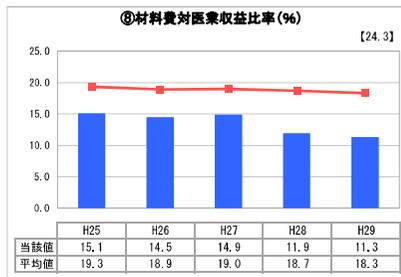
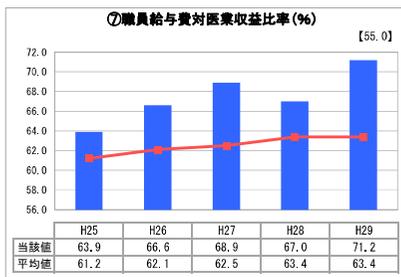
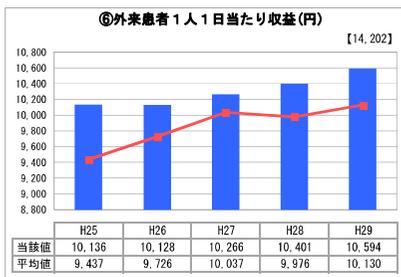
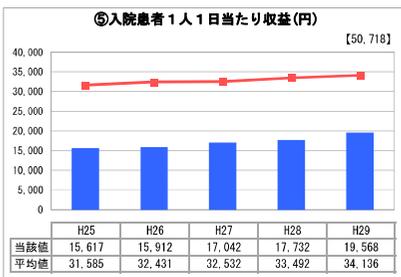


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



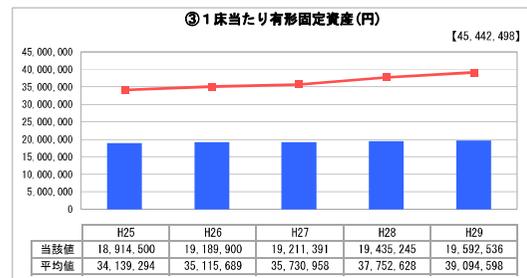
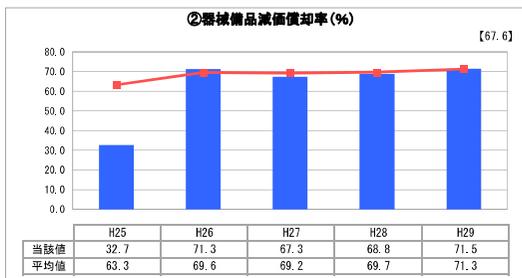
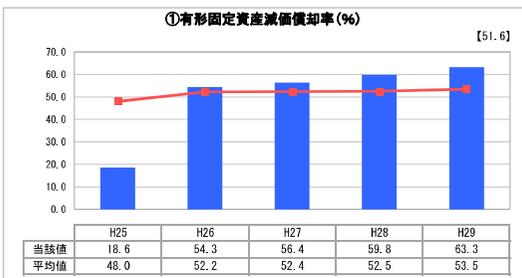
「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

「費用の効率性②」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「器械備品の減価償却の状況」

「建設投資の状況」

## I. 地域において担っている役割

公立置賜長井病院は、高度・先進医療を提供する公立置賜総合病院と密接な連携や相互補完を図りながら、市町村区域を診療圏とし、より住民に身近な医療施設として初期医療や回復期・慢性期医療の提供を行っている。

また、精神科入院施設や精神科デイケアの提供など、総合病院と連携しながら、精神医療の提供もしている。なお、H30.3.31で精神科病床（60床）は閉鎖し、総合病院へ集約。

## II. 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は、前年度より1.1ポイントアップ、平均値よりも12.5ポイント上回っており、引き続き100%以上を維持している。「医業収支比率」については、これまで平均値並みで推移していたが、精神科病棟を閉鎖するに伴い、10月以降は患者調整を行ったため医業収益が大きく減少し、前年度より3.4ポイント減少している。

「1人1日あたり収益（入院）」については、平均値の半分程度に留まっており、新たな診療報酬加算の取得など収益アップに取組む必要がある。

「職員給与費対医業収益比率」については、前述した精神科閉鎖に向けた患者調整などにより、医業収益が上がらなかったことが要因と見ており、医業収益を上げることができれば平均値に近づくと思込んでいる。

### 2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」について、前年度より3.5ポイント増加、平均値よりも9.8ポイント上回っている。

「器械備品減価償却率」については、前年度より2.7ポイント増加、平均値よりも0.2ポイント上回っている。

平成12年度に既存病院を再編統合し、一部事務組合を設立した際、既存財産をそのまま組合に移管しているため、築50年を超える建物や法定耐用年数を大きく超える医療機器があるなど保有資産の老朽化が進んでいる。

### 全体総括

平成29年度決算について、「経常収支比率」は、引き続き100%を上回ることができた。

一方、本業である「医業収支比率」については、精神科病棟の閉鎖に向けた患者調整という特殊事情があったものの、4年連続で「前年より悪化」という状況となった。

今後も延患者数の減少は進むと予想されるため、引き続き医業収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

また、病院建物の耐震性不足や老朽化が著しいため、全面改築の検討を始めているが、過大な投資とならないよう、医療圏内の需要見通しに沿った適正な施設規模での整備を行っていく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜南陽病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	透訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	8,082	第2種該当	15：1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
50	-	50

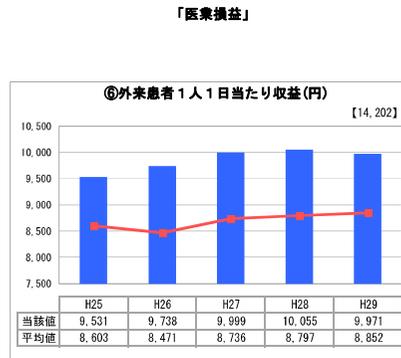
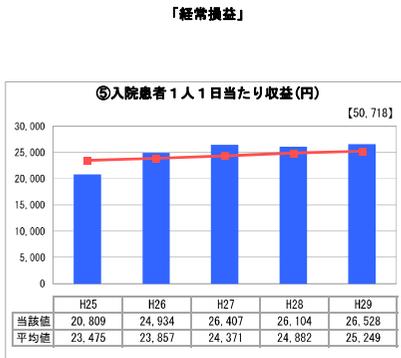
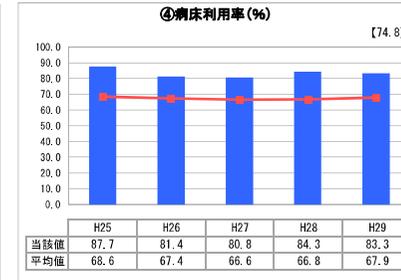
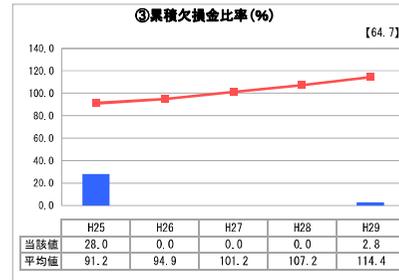
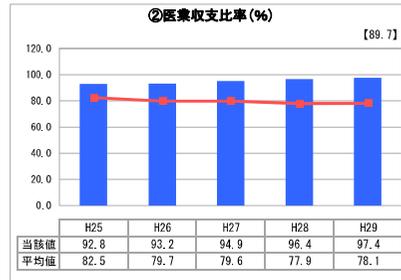
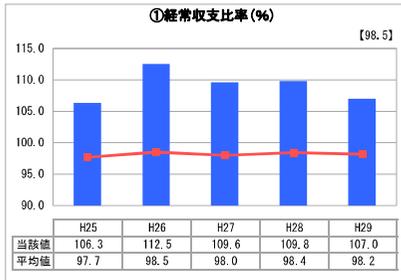
**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

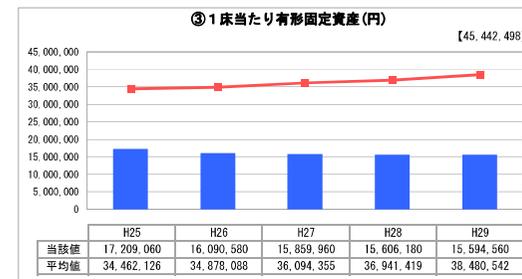
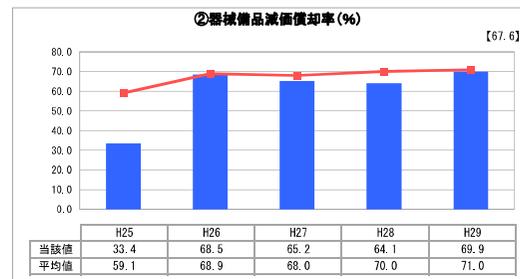
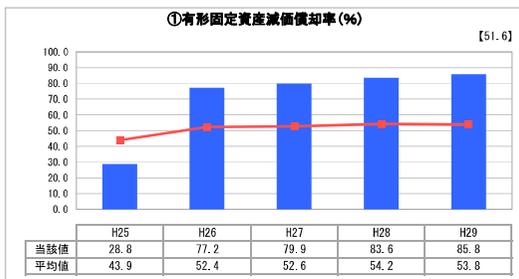
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

## I. 地域において担っている役割

公立置賜南陽病院は、高度・先進医療を提供する公立置賜総合病院と密接な連携や相互補完を図りながら、市町村区域を診療圏とし、より住民に身近な医療施設として初期医療や回復期・慢性期医療の提供を行っている。

## II. 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は、前年度より2.8ポイント下がったものの、平均値よりも8.8ポイント上回っており、引き続き100%以上を維持している。「医業収支比率」についても、前年度より1.0ポイント上がり、平均値よりも上回っている状況を維持している。「1人1日あたり収益（入院）」は、25年度までは平均値を下回っていたものの、病院における各種収益改善の取組みにより26年度からは平均値を上回っている。平均値を上回っている「1人1日あたり収益（外来）」と併せて、新たな診療報酬加算の取得など更なる収益アップに取組んでいく。

### 2. 老朽化の状況について

会計制度の変更の影響で26年度の対前年上昇幅が大きいが、「有形固定資産減価償却率」については、前年度より2.2ポイント増加、平均値よりも+32.0ポイントと大きく上回っており、老朽化が著しい状況である。「器械備品減価償却率」については、前年度より5.8ポイント上回ったものの、平均値よりは1.1ポイント下回っており、大規模な機器の入れ替えではない中、定期的に機器の更新を行っていることによるものと思われる。施設設備全体として、平成12年度に既存病院を再編統合し、一部事務組合を設立した際、既存財産をそのまま組合に移管しているため、築50年を超える建物や法定耐用年数を大きく超える医療機器があるなど保有資産の老朽化が進んでいる。

### 全体総括

平成29年度決算について、「経常収支比率」は、引き続き100%を上回ることができた。本業である「医業収支比率」についても、人口減少等に伴う延患者数の減少などの影響がある中、4年連続で「前年より改善」という状況を維持しているが、今後も延患者数の減少は進むと予想されるため、引き続き医業収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。なお、耐震性能不足や著しい老朽化など施設面での課題を解消するとともに、医療圏内の需要に連動した適正な施設規模での新たな施設の建設事業を、今年度より着手しているところである。